

家族みんなで楽しめるものだから買っていい？ というママを納得させる買い物のヒント満載！

6 Vol.207
2019 JUNE
Produced by



ds

「本業：父親」であるあなたへ

パパの 買い物リスト 100 OVER

ママにも
子どもにも
絶対に叱られない

ヴィンテージ
パターンの
ポップな家具は
パパのセンス
急上昇！

家族の思い出を
キレイに残せるから
このカメラ買って！

時計界の
“ハカセ”が
買う理由を
詳しく教える

アクティブな
遊びにトイや
ガジェットは
マストだから！



身の丈に合った 腕時計選び
厳選10モデル

フリーランスエディター/時計ライター

竹石祐三

TAKEISHI Yuzo



モノ系メディアの編集を経てフリーランスの時計ライターに。専門誌やライフスタイル誌などで時計の記事を執筆。愛用の時計はブライトリングなど多数。元GoodsPressの副編集長。

R
—
S



vol.
II バウハウスとユンハンス

WATCH
MEETS
CULTURE



建築や家具に興味のある人であれば「バウハウス」の名前は聞いたことがあるはず。1919年、ヴァイマル共和国期のドイツに設立された芸術とデザインの総合学校であり、また、そこから生まれた精神を継承する芸術の総称として広く知られる存在だ。2019年はバウハウスが創立してちょうど100年。特にドイツの腕時計にはバウハウスのスピリットを受け継いだものが多く、この節目の年はアニバーサリー・モデルの発売もアナウンスされている。



1908年にスイスで生まれたマックス・ビル。1927年から1928にかけて Bauhaus のデッサウ校舎で学び、その後は建築家、画家、彫刻家、プロダクトデザイナーなど多方面で才能を發揮した。

WATCH MEETS CULTURE

Bauhaus が存在したのは、1919年から1933年までのわずか14年だ。しかし、校長を務めたヴァルター・グロピウスやハンネス・マイヤー、ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエをはじめ、ヨハネス・イッテン、マルセル・プロイヤーといった鋭々たる建築家や芸術家が運営に携わったのみならず、同校からは多くのデザイナーが誕生した。彼らは1933年の閉校後も

各地で講師を務め、Bauhaus に始まる機能的デザイン思想は世界中に伝播していくのだ。

そんな Bauhaus の出身者にマックス・ビルがいる。建築家、画家、彫刻家、プロダクトデザイナーとして活躍するのみならず、1953年、旧西ドイツに開校したウルム造形大学の初代校長も務め、“ Bauhaus 最後の巨匠”と呼ばれている人物だ。



Max Bill by
Junghans
Hand Wind

マックス・ビルの名を一躍有名にしたのが、ユンハンスのキッチンクロック。そのユンハンスはドイツ南西部のシュランベルクに本社を構える1861年創業の時計メーカーで、1903年にはすでに3000人以上の従業員を抱えていたという。ずっと後の話になるが、1972年にはミュンヘン・オリンピックの公式タイムキーパーを担当し、1990年には世界初の電波腕時計「メガ1」を発表するなど、150年以上の間に数々

の実績を残してきた。

ユンハンスがマックス・ビルにデザインを依頼してキッチンクロックが完成したのは1956-57年のこと。そのミニマルで美しく、時刻の判読性に優れたダイアル・デザインは、1958年に発表されたテーブルクロック、そして1961年に誕生した腕時計にもしっかりと継承される。それが、ユンハンスの旗艦コレクションのひとつとなっている「マックス・ビルバイユンハンス」だ。

ユンハンス
マックス・ビルバイユンハンス ハンドワインド
Ref.027 3701 00(左)
Ref.027 3700 00(右)

価格:各11万8800円

手巻きのムーブメントを搭載し、ケース径も34mmとした1961年発売のファーストモデルに最も近いのがこのシリーズ。写真の2モデルのほかにも、ダイアルのカラー違いやメッシュブレスレットのモデルなど、バリエーションは豊富。



なかでも代表的なのが「マックス・ビルバイユンハンスハンドワインド」。ネーミングが示すとおり機械式の手巻きムーブメントを搭載しており、34mmというケース径も1961年発表のオリジナルに最もサイズが近いモデルだ。美しくて見やすいダイアル・デザインはもちろんのこと、ぱっくりと盛り上がったドーム型のハードプレキシガラスも当時の雰囲気を残しており、なんとも愛らしい雰囲気を放っている。時計ファンに限らず、幅広い層に支持されているというのもうなずける話だ。

この手巻きモデルをはじめ、現在のマックス・ビルコレクションは自動巻きやクオーツ、クロノグラフ搭載モデルにレ

ディス、さらには電波時計まで、実に幅広いラインナップで展開されている。やはり、オリジナルに近い手巻きモデルを選びたくなるが、2019年はちょっと悩ましい状況になってきた。冒頭にも書いたとおり、2019年はバウハウス創立100周年。そのアニバーサリー・モデルがユンハンスからリリースされるのだ。

max bill

Automatic 100 Jahre Bauhaus

ユンハンス
**マックス・ビルバイユンハンス
オートマティック Ltd1000**
Ref.027 4901 02
価格:18万1440円(予価)

バウハウス創立100周年を記念して製作された世界限定1000本のモデル。マックス・ビルデザインらしいミニマルなダイアルはそのままに、限定仕様ならではの赤い時分針とデイト表示が効いている。自動巻き、ステンレススチール、ケース径38mm。2019年5月発売予定。



WATCH MEETS CULTURE

1927年、マックス・ビルは Bauhaus のデッサウ校舎を目にしたとき、「白い壁、大きなくらいガラスのファサード、最前部には学生寮、そして赤がアクセントとなっているバルコニーのドア、こんな建物は今まで見たことがない」と語ったという。そして今回発売される「マックス・ビル バイ ユンハンス オートマティック Ltd1000」は、マックス・ビルのその当時の印象を随所に反映させた世界限定1000本のモデルだ。

デッサウ校舎の壁面を想起させるマ

ット仕上げのシルバーダイアルをはじめ、アンスラサイトPVDのケースとグレーのカーフストラップは Bauhaus の建築要素であるコンクリート、赤い時分針とデイト表示は、校舎の赤いドアをそれぞれモチーフにしている。



記念モデルのケースバックには、マックス・ビルが学んだ Bauhaus・デッサウ校舎の外観が描かれている。ガラスのファサードからムーブメントを観察できる演出も洒落ている。



max bill

Chronoscope 100 Jahre Bauhaus



ユンハンス
WG マックス・ビル バイ
ユンハンス クロノスコープ
Ref.027 9900 02
価格: 105万8400円(予価)

世界限定100本の記念モデル。ケースは18Kホワイトゴールドで、ホワイト・ダイアルとの調和が美しい。ダイアル9時位置に施された“MAX BILL BAUHAUS”的文字とデイトの数字は、やはりデッサウ校舎の赤いドアにインスピライアされたもの。自動巻き、18Kホワイトゴールド、ケース径40mm、2019年5月発売予定。

そして、このモデルでニヤリしてしまうのがケースバック。アニバーサリー・モデルらしく、デッサウ校舎の外観がプリントされているのみならず、この建物の特徴でもあるガラスのファサードを通して内部のムーブメントが見えるという、所有欲をくすぐる仕上

がりになっているのだ。

Bauhaus 100周年モデルはもうひとつ「WG マックス・ビル バイ ユンハンス クロノスコープ」も世界限定100本でリリースされる。こちらはケースが18Kホワイトゴールドとなっており、予価も98万円(税抜)と気軽に手を出せるモデルではないが、Bauhaus・デザインに魅せられている人なら、ちょっとびり心が傾いてしまうかもしれない。

マックス・ビル バイ ユンハンスは、機能的デザインを見事に具現したタイムピースであり、デザイン面、実用面でも優れた時計だ。すでに何本も時計を持っている人も、これから腕時計の購入を考えている人も、ユンハンスに目を向けてみるにはいいタイミングかもしれない。